

# 壱岐地域

対象市町：壱岐市

## 1. 地域データ

壱岐地区

面積	壱岐地区	総面積に占める割合
総面積 (ha)	13,858	—
うち耕地面積 (ha)	3,850	27.8%
うち森林面積 (ha)	4,837	34.9%
世帯数	壱岐地区	総世帯数に占める割合
総世帯数 (戸)	10,401	—
うち総農家数 (戸)	2,728	26.2%
うち主業農家 (戸)	383	3.7%
うち林家数 (戸)	359	3.5%
人口	壱岐地区	総人口に占める割合
総人口 (人)	29,377	—
うち農業就業人口 (人)	2,585	8.8%

壱岐地区

販売農家	壱岐地区	県内構成比	県
販売農家戸数 (戸)	1,810	7.3%	24,887
主業農家戸数 (戸)	383	4.8%	7,901
準主業農家戸数 (戸)	576	9.5%	6,041
副業的農家戸数 (戸)	851	7.8%	10,945
耕地	壱岐地区	県内構成比	県
耕地面積 (ha)	3,850	7.7%	49,900
田 (ha)	2,420	10.4%	23,200
畑 (ha)	1,430	5.4%	26,700
水田整備率 (%)	61.2	—	52.8
畑整備率 (%)	2.8	—	23.7
耕作放棄地面積 (ha)	399	3.4%	11,741
民有林	壱岐地区	県内構成比	県
人工林面積 (ha)	931	1.0%	91,128
4～9齢級 (ha)	584	1.2%	49,403
10齢級以上 (ha)	326	0.8%	39,965

## 2. 農林業・農山村の概要

### 現状と課題

壱岐地域は、福岡県と対馬市との中間地点で博多港から北西に76km、佐賀県唐津港から北に42kmの距離にあり、南北約17km、東西約15kmのやや南北に長い亀状の島で、総面積は138.58km<sup>2</sup>です。対馬暖流の影響を受け、比較的温暖な海洋性気候で、気温は県本土の長崎市・佐世保市と比較すると、年間を通して1～2℃低く、年平均気温は15.4℃、降水量は1,882mmです。

耕地面積は3,850ha、平坦部が多いため水田が2,420ha、耕地率は県平均12%に対し28%、水田の基盤整備率は61%と高くなっています。また、森林面積は4,837ha、森林率は県平均59%に対し35%と農地が多く森林が少ないのが特徴です。

販売農家1,810戸のうち主業農家は383戸(21%)と県平均(32%)より少なく、65歳以上の農家割合は64%と高齢化が進んでいます。特定農業団体等は県の約半数にあたる38組織が設立され集落営農に取り組んでいます。

主な作目は、地域の農業産出額の過半を占める肉用牛をはじめ、水稻、葉たばこを基幹とした複合経営を主体に、アスパラガス・いちご・メロン・ミニトマトなどの施設園芸、プロッコリーや加工用たまねぎなどの露地野菜、小菊など花き類の産地化に取り組んでいます。

高度経済成長期の昭和40年代を契機に兼業化が進展し、安定兼業の結果、土地利用型農業を中心として農業担い手不足が深刻化しています。こうした中、農地についてはこれまで資産的保有の傾向が強く、安定兼業農家から規模拡大志向農家への農地流動化は進みにくい状況でしたが、最近では兼業農家の高齢化に伴い、農地中間管理事業等を活用した農地流動化が進む可能性が高まっています。

生産流通面では、生産技術の高位平準化、生産コスト縮減や労力軽減、安全・安心な農産物の生

産、新たな販路開拓やブランド確立などと共に、農商工連携や農業の6次産業化による地域の特性を生かした競争力ある商品開発なども含め、持続可能な農業経営の構築が必要です。

品目面では、大規模肉用牛飼育農家の育成と繁殖雌牛の増頭による飼養規模拡大、水稻・麦、大豆を中心とした土地利用型作物と野菜を組み合わせた水田農業の確立、園芸品目では高収益性の作物・作型や規模拡大による産地の拡充などが課題です。また、家畜排泄物の良質堆肥化や焼酎粕のエコフィード利用など畜産・耕種・加工の連携による独自の地域内循環型農業の確立・展開も引き続き求められています。

農山村環境面では、農村や森林の持つ多面的機能の維持や鳥獣被害防止、農山村地域における安全・安心の快適な環境づくりに向け、さらなる取組範囲の拡大が必要です。

さらに、壱岐の魅力の積極的な情報発信やさまざまな地域資源をいかしたグリーン・ツーリズム活動などを展開し、消費者への情報発信等を充実し、壱岐の農産物・農山村の応援団を拡大していくことが重要な課題です。

## 3. 壱岐地域の農林業・農山村の将来像

### 将来像

壱岐地域の農業発展のためには、農業者が効率的かつ安定的な農業経営ができる環境整備や人づくり・組織づくり及び農業生産額の向上が必要です。

そのため、海路を介して大消費地の福岡市に近いという地理的優位性、豊かな自然、貴重な歴史・文化などの資源を有効に生かした社会形成のなかで、地域活性化の核となる農業を目指します。

農業の担い手による農村集落の機能が維持され、集落ぐるみの地域農業を目指します。担い手への農地利用の集積・集約化を加速させるため、農地中間管理機構等を活用して、集落営農組織の法人化に合わせた農地の集積を図ってまいります。

農畜産物の産地化推進や大都市圏向けの販路開拓・流通拡大を通して、壱岐ブランドの確立・浸透を目指します。米麦、壱岐焼酎、肉用牛などが結びついた地域資源循環型農業を展開し、環境にやさしい農業の実践を目指します。

今後も壱岐ブランド農畜産物や農村環境・農林業体験などを観光資源の一つとした活発な農商観光連携を通して、壱岐を訪れた観光客が壱岐の農業・農村の応援団となることを目指します。

また、農山村の多面的機能の維持には、地域の共同活動による農地、水路・農道等の保全や間伐等による森林の保全が重要であり、取組を継続推進します。併せて、危険ため池の整備や山地災害の予防対策を進め、安全・安心な農山村地域づくりを目指します。





## 4. 基本的振興方向

### I 収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化

#### I-1 品目別戦略の再構築

##### ①水田をフル活用した水田農業の展開

- 米は「つや姫」の食味向上・高品質安定生産、区分出荷の取組によるブランドの確立、高温耐性品種の作付拡大、病虫害防除、水管理の徹底等による品質向上を図ります。
- 麦は土壌改良資材の施用、適期播種、排水対策の実施による生産拡大を目指します。
- 大豆は土壌改良資材の施用、適期播種の遵守、多収技術の導入等による生産拡大を目指します。
- 土地利用の合理化や機械利用の効率化によるコスト縮減を図るため、集落営農組織の育成を進めます。



「つや姫」栽培状況

##### ②次世代へ継承する「ながさきの果樹」の推進

- ゆずは、地元の特産品である「ゆずこしょう」、「ゆずポン酢」、「ゆべし」などの原料として活用されています。加工品の生産・販売を推進するとともに、改植を進め、産地の維持・発展を図ります。
- 「麗紅」、「津之輝」、「せとか」、「はるか」、「スイートスプリング」などの新たな中晩柑品種を導入し、品質・収量の向上を図ります。



新たな中晩柑品種「津之輝」

##### ③生産性が高い施設野菜産地の育成・強化

- アスパラガスは、部会組織では全国初のエコファーマー認定を受けており、環境にやさしい産地活性化を図るとともに、新規栽培者や中堅・若手生産者や低単収生産者に対する個別指導、新改植事業等の積極的な活用により産地の維持・拡大を図ります。
- いちごは、「さちのか」から多収性の「ゆめのか」への転換を推進します。栽培技術確立を早急に行い、品種特性に合わせた管理の徹底等により安定多収を目指します。併せてJAの登録ヘルパーやパッケージセンター等の活用を図ります。



アスパラガスの栽培状況

- メロンは、春作（アムスメロン）主体の作型で栽培が行われ、非破壊糖度計により収穫前に圃場で糖度を確認して出荷されています。全体の9割以上が贈答用に向けられており、特にアムスメロンについては、今後も香岐の初夏を代表する特産品としての振興を図ります。
- ミニトマトは、アムスメロンの後作ハウスや遊休ハウスを活用して抑制栽培とし、全量農協共同選果により出荷調整作業を軽減し、振興品目として規模拡大を図ります。

##### ④ニーズに対応した露地野菜産地づくり

- ブロッコリーは、鮮度保持のための氷詰め出荷、共同選果体制の導入と契約取引の拡大により、単価は安定してきています。水田裏作での栽培が主体であるため、排水対策の徹底による単収向上と複数作型の導入による栽培面積拡大と経営リスク回避を図ります。
- かぼちゃは、安定した需要が見込める春作の振興に加え、抑制作では貯蔵出荷を推進し、全農を通じた契約販売とすることで高単価の確保を図ります。
- 加工業務用たまねぎは、全量契約販売による価格の安定が見込める新規品目であり、栽培技術の徹底による単収の向上と面積の拡大を図ります。

##### ⑤活力ある「ながさきの花」100億達成プランの推進

- 小ぎくの栽培が平成4年から始まり、露地で栽培できる品目として作付けが推進されています。最需要期である盆、秋の彼岸における安定出荷を図るため、電照抑制栽培の導入を進めています。また、新規栽培者の確保・育成を進め、「いきな小菊」のブランド確立、産地の維持発展に取り組みます。
- 施設草花は、冬場のストックを中心に夏場のひまわり、アスターが栽培されており、新規品目の導入を進め、産地の維持・発展に取り組みます。



小ぎく現地検討会

##### ⑥地域の特性を生かした工芸作物（葉たばこ）の推進

- 葉たばこは、肉用牛、水稻に次ぐ基幹作目であり、AP-1などの省力型機械の導入や受委託共同乾燥施設への乾燥作業の委託により経営規模の拡大を図ります。
- 大規模圃場整備地区圃場の活用を進めるとともに、排水対策や品種転換に伴う栽培管理技術の確立による生産性の向上を図ります。



葉たばこ栽培状況



⑦畜産クラスターの取組による日本一の肉用牛産地づくり

- 肉用牛は、畜産クラスター協議会を核として、新規就農者の円滑な就農支援や規模拡大志向農家の規模拡大を推進します。また補助事業を活用した増頭推進、ヘルパー組織やコントラクターといった労力支援システムの構築、子牛共同育成施設や繁殖牛受託施設等の既存施設を活用した労力低減を推進するなど、子牛生産地としての生産基盤の強化を図ります。
- 堆肥センターの利用促進により、適切な家畜排泄物処理を推進し、良質な堆肥生産を図ると共に、焼酎粕を肉用牛の飼料として利用し、安全・安心なエコフィードを推進します。
- 畜産経営の生産性を確保するため、家畜伝染病予防対策の強化を継続します。



子牛生産を強化するキャトルステーション

I-2 品目別戦略を支える加工・流通・販売対策

①本県農林産物の生産拡大に向けた流通・販売対策の強化

- 焼酎用の大麦生産は、沓岐焼酎組合と協議し、実需者ニーズに応じた供給量の確保、面積拡大を図り、実需者との交流促進により品質の向上に努めます。
- 加工業務用たまねぎ等安定した収入確保のための契約栽培を推進します。



焼酎用大麦の収穫

②新たな需要開拓に向けた海外販売対策の強化

- 輸出による新たなマーケット開拓に向け、輸出業者等との連携や情報交換により取組を検討します。

③6次産業化の取組等による農産物の付加価値向上

- 農産物直売所や加工所の生産者と、菓子業者など他産業との連携強化による更なる農商工連携の推進を図ります。
- 専門家の招聘による地場農産物を原材料とした新たな加工品の開発や新しい宣伝・販売手法に取り組むなど6次産業化の推進を通して地域の活性化を推進します。



ゆず加工の状況

④安全・安心な農産物の供給

- GAPに取り組んでいる生産部会に対し、研修会等を通して安全・安心な農産物の供給に向けた更なる取組を支援します。

I-3 地域資源を活用した農山村地域の活性化

①コミュニティビジネスの展開による農山村地域の活性化

- 直売所への出荷者を対象とした講習会等を通じて、多品目の農産物生産への取組を推進します。
- 女性農業者組織による郷土料理体験などの体験プログラムを観光関連団体等との連携により充実させ、都市部との交流を通して地域の活性化に取り組みます。

②地域資源を活用したバイオマス利用の促進

- 沓岐焼酎用大麦の生産、焼酎粕の飼料利用、家畜糞尿の堆肥化利用などを組み合わせた沓岐独自の地域内資源循環型農業を更に強化し展開します。

	現況	目標	現況年度
アスパラガスの作付面積 (ha)	14.5	16	H26
いちご「ゆめのか」の作付面積 (ha)	2.4	3.0	H26
加工業務用たまねぎの収量 (t/10a)	3.4	6.5	H26
長崎型新肥育技術実証農家数 (戸)	1	5	H25
分娩間隔 (日)	395.9	390	H25
放牧実施頭数 (頭)	79	98	H25
地域特産品向け麦の生産拡大 (ha)	146	171	H26
高温耐性品種 (にこまる、つや姫等) の拡大 (ha)	704	800	H26
特別栽培農産物面積: 水稲 (ha)	229	250	H26
特別栽培農産物面積: 大豆 (ha)	75	80	H26
集落営農組織等 (特定農業団体・法人等) (組織)	38	42	H26
堆肥センターの家畜排泄物処理量 (t)	8,931	15,000	H26
焼酎粕原液の肉用牛への飼料利用 (t)	939	1,750	H26
農産物直売所、グリーン・ツーリズムの売上額 (百万円)	503	560	H26

II 経営感覚に優れた次代の担い手の確保・育成

II-1 新規就農・就業者の増大

①就農・就業希望者を地域に呼び込む組織的な取組の推進

- 進路や農業研修等の相談、就農方法の紹介などにより、就農・就業希望者を地域に呼び込む組織等と連携し、新規就農者の確保を図ります。
- 新規就農者やU・Iターン就業希望者に対しては、青年就農給付金や各種研修制度の活用及び集中指導・相談、専門別フォローアップ講座などを行い定着を図ります。
- 林業專業作業員の新規就業者に対しては、安全作業や技能向上のため各種研修制度の活用や

研修等の実施により就業者の定着を図ります。

- 農外からの就農希望者に対して農業法人への就業を支援するとともに、将来的に独立経営が行えるよう、技術面等での支援を実施します。

## II-2 個別経営体の経営力強化

### ① 農業経営体の経営力向上の推進

- 経営感覚の優れた農業者の育成と共に、集落営農組織等の法人化及び安定経営を支援します。
- 壱岐地域の兼業農家は地域農業を支える重要な担い手であることから、認定農業者として経営が確立するよう支援します。



法人設立総会

### ② 農業所得1,000万円以上を確保する経営体育成の推進

- 経営規模拡大を推進するとともに、常時雇用が可能な経営類型を検討します。

### ③ 農業経営の法人化と経営継承等の推進

- 既存の集落営農組織の法人化を推進するとともに、集落営農組織がない地域については、集落の今後進むべき方向性の検討と集落での合意形成を図ることで、集落営農組織の設立を推進します。
- 担い手としての個別経営体がない地域では、集落等を範囲とした集落営農組織の設立を推進します。
- 高齢化等により引退する農家の経営を円滑に引き継ぐ仕組みづくりを検討します。

### ④ 新たな担い手となる法人等の参入

- 他産業からの農業参入に対しては、関係機関との連携の下に技術面、経営面、制度面での支援を通して円滑な参入を図ります。

### ⑤ 青年農業者や女性農業者等の資質向上とネットワークの強化

- 青年農業者組織が行うプロジェクト活動を支援し、資質向上に取り組みます。
- 女性農業者を対象とした研修会を行い、資質向上とネットワークの強化を図ります。

## II-3 担い手確保のための生産基盤の整備

### ① 大規模化・省力化を支える生産基盤整備の加速化

- 大規模化・省力化を支えるため生産基盤の整備や、整備済みの農業水利施設の補修、更新事業を推進します。



生産基盤整備地での稲刈状況

### ② 担い手への農地集約の加速化

- 担い手への農地集約を加速化させるため、農地中間管理事業を活用した貸借農地面積の増加を図ります。

### ③ 規模拡大する経営体に対する労力支援体制の強化

- 規模拡大した経営体に対する労力支援体制の強化を図ります。

	現況	目標	現況年度
新規就業者を呼び込む組織等受入可能人数(人)	0	5	H26
新規自営就農者数(人/年)	8	13	H22~26平均
農業法人数(法人)	9	28	H25
集落営農組織の法人化(組織)	2	21	H25
農業所得1,000万円以上確保が可能となる経営規模に達した経営体数(経営体)	4	27	H26
基盤整備取組地区数(地区)	7	8	H26
農業水利施設の補修、更新事業取組(地区)	0	1	H26
担い手への農地集積面積(ha)	1,620	1,642	H25
地域労働力支援システム組織数(組織)	20	21	H26

## III 地域の活力と魅力にあふれる農山村づくり

### III-1 地域別・産地別戦略の展開

#### 壱岐地域全体

#### 米麦・牛・野菜等が結びつき農産物をごっとり(まるごと)生かした循環型農業の振興

- 低農薬低化学肥料で特別栽培米・「つや姫」など高品質で安全安心な米を作り、そのワラを黒毛和牛が食べて堆肥を作ります。その堆肥によって単収日本一のアスパラガス産地等を目指します。



焼酎粕を利用した給餌



- 吉岐は麦焼酎発祥の地として麦焼酎の製造が盛んに行われており、原料用大麦の面積拡大を図ります。また、麦わらや焼酎粕をエコフィードとして肉用牛（繁殖）への利用拡大、肉用牛の排泄物を堆肥センターで堆肥化し圃場へ還元することで焼酎原料の大麦の収量向上や野菜の安定生産につなげます。
- 肉用牛のほか、水稲・葉たばこの主幹作物やアスパラガス・いちご・メロン・ミニトマト等の施設園芸や小ぎく、ゆず等についても単収向上、作付拡大、収益性の向上に努め、農業振興を図ります。

**目指す取組**

- 「つや姫」の食味向上・高品質安定生産によるブランド化の確立
- アスパラガスの新改植事業活用、いちごのパッケージセンター活用、ミニトマトの共同選果による産地拡大推進
- 長崎オリジナル小ぎくの導入推進、高品質安定出荷により「いきな小菊」ブランド確立
- 新規就農者の確保・育成による産地の維持・拡大

**長崎和牛「吉岐牛」ブランド確立と畜産クラスターの取組による肉用牛の増頭推進**

- 地域団体商標登録として認められた「吉岐牛」の市場評価を高め、更なるブランド確立を図ります。
- 畜産クラスター協議会を核として、新規就農者の円滑な就農支援や規模拡大志向農家の規模拡大を推進します。また補助事業を活用した増頭推進、ヘルパー組織やコントラクターといった労力支援システムの構築、子牛共同育成施設や繁殖牛受託施設等の既存施設を活用した労力低減を推進するなど、子牛生産地としての生産基盤の強化を図ります。

**目指す取組**

- 補助事業等を活用した肉用牛の増頭推進
- 肉用牛ヘルパー組織やコントラクター等の労力支援システムの構築
- 子牛共同育成施設や繁殖牛受託施設等の既存施設を活用した労力低減の推進
- 新規就農者の確保・育成による産地の維持・拡大



吉岐牛研究会勉強会

**集落営農組織の法人化による産地の担い手確保・育成**

- 高齢化、後継者不足を解決するため、継続的に地域集落を守り農業経営を維持・発展させていく吉岐農業の担い手として、集落営農組織を育成し法人化を図ります。
- 法人化した集落営農組織の経営安定を図るため、水田農業と組み合わせるアスパラガス等の施設野菜や加工業務用の露地野菜等の導入を推進し、規模拡大や雇用型農業の実現による農業所得向上を目指します。



人・農地プランの検討

**目指す取組**

- 担い手不足が懸念される地域において、集落を単位とした営農組織設立の推進
- 既存集落営農組織の法人化推進
- 法人化した集落営農組織での雇用型就業の推進
- 集落営農組織の法人化後の経営安定支援（土地利用型作物に代わる新規品目の導入推進等）
- 農地中間管理機構を通じた農地の集約化推進

**Ⅲ-2 農林業・農山村の暮らしを支える環境整備**

**① 農山村の持つ多面的機能の維持**

- 農山村の多面的機能維持のため、共同活動による水路・農道等の保安全管理を推進します。
- 農業生産活動を支援するために取り決めた、農地を維持、管理する協定を継続支援します。
- 化学肥料、化学合成農薬の5割低減の取組と合わせて、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を推進します。
- 森林の多面的機能の維持増進のため、間伐等森林整備を推進します。

**② 農山村地域における安全・安心で快適な地域づくり**

- 安全・安心で快適な地域づくりのため、ため池整備を推進します。
- 鳥獣被害の防止に向け、イノシシの水際撲滅対策強化と関係機関や住民との連絡体制強化を図ります。
- 保安林機能を維持し山地災害防止のため、予防対策や災害復旧工事を実施します。



老朽ため池の整備「大塚地区」（吉岐市）

**③ 本県農林業・農山村の応援団づくりのための効果的な情報発信、県民との協働**

- 子供たちを中心とする地域住民に森林の手入れ体験をさせる県民協働の森林づくり活動を推進します。



植樹体験活動

	現況	目標	現況年度
資源保全活動取組面積 (ha)	2,786	2,877	H26
山地災害危険地区着手箇所数 (箇所)	7	9	H26
老朽ため池の整備促進 (着手箇所)	0	8	H26